

メキシコ政治情勢（2026年7月）

〔概要〕

【内政】

- 6日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表した。シェインバウム大統領の支持率は68%。
- 16日、連邦検察庁は、燃料密輸に関わったとして、ルフォ元バハカリフォルニア州知事を逮捕した。
- 30日、国防省及び治安・市民保護省は合同作戦を実施し、マンソ・ウルアパン市長殺害の主犯格とされる人物を逮捕した。

【墨米外交】

- 7月上旬、シナロア・カルテル元最高幹部のサンバダを米に移送する際にしようされた飛行機がニューメキシコ州内で展示されたことに関し、シェインバウム大統領が早朝記者会見で発言した。
- 13日、シェインバウム大統領は、在米メキシコ人17名が死亡した事案に関し、米国司法省および各州検察に対して正式に告発すると発表した。
- 13日、シェインバウム大統領は、今期、メキシコ産砂糖の対米輸出枠が回復したことを歓迎した。
- 19日、シェインバウム大統領は、W杯決勝に出席するため米国を訪問した。
- 20日、ニューヨーク連邦地裁は、シナロア・カルテルの元最高幹部であるマヨ・サンバダを麻薬密売、犯罪組織運営などの罪状で終身刑を言い渡した。
- 24日、シェインバウム大統領は、ロリンズ米農務長官からの書簡を受け、ラセンウジバエ感染によって2024年11月から停止されていたメキシコ産生牛の対米輸出が8月下旬より段階的に再開される見通しであると発表した。
- 27日、ミラー国土安全保障補佐官は、麻薬カルテルがメキシコの領土を支配しており、政治・法制度が機能していないと発言。28日には、トランプ大統領は、USMCAが米国にとって重要ではないと発言した。

【その他外交】

- 6日から8日にかけて、パルメラン・スイス大統領が企業ミッションとともにメキシコを訪問した。
- 15日、シェインバウム大統領はメキシコを訪問したムリーノ・パナマ大統領と首脳会談を行った。
- 17日、ベラスコ外相はカナダを訪問し、メキシコ・カナダ行動計画2025－2028の実施状況の確認および二国間の政治的対話の維持を目的とした実務会合を行った。

[本文]

【内政】

1 大統領支持率等世論調査結果

6日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率等に係る世論調査結果を発表した。シェインバウム大統領の支持率は、68%。概要は以下のとおり。

(1) シェインバウム大統領の取組を支持するか。

ア 支持する : 68% (前回(5月、以下同じ) 69%)

イ 支持しない : 32% (前回 31%)

ウ 分からない : 0% (前回 0%)

(2) シェインバウム政府のトランプ米大統領との関係構築についての評価如何。

ア とても良い、又は良い : 49% (前回(5月、以下同じ) 45%)

イ とても悪い、又は悪い : 33% (前回 40%)

(3) 墨米関係についての評価如何。

ア とても良い、又は良い : 40% (前回(5月、以下同じ) 45%)

イ とても悪い、又は悪い : 40% (前回 41%)

(4) シェインバウム政府が取り組んでいるUSMCAの交渉についての評価如何。

ア とても良い、又は良い : 51% (前回(5月、以下同じ) 57%)

イ とても悪い、又は悪い : 37% (前回 35%)

(5) 各分野におけるシェインバウム政権の取組を如何に評価するか。

ア 経済

(ア) とても良い、又は良い : 46% (前回(5月、以下同じ) 48%)

(イ) とても悪い、又は悪い : 40% (前回 42%)

イ 汚職

(ア) とても良い、又は良い : 20% (前回 30%)

(イ) とても悪い、又は悪い : 66% (前回 61%)

ウ 治安

(ア) とても良い、又は良い : 20% (前回 25%)

(イ) とても悪い、又は悪い : 68% (前回 66%)

エ 組織犯罪

(ア) とても良い、又は良い : 76% (前回 66%)

(イ) とても悪い、又は悪い : 13% (前回 24%)

オ 社会保障

(ア) とても良い、又は良い : 65% (前回 71%)

(イ) とても悪い、又は悪い : 25% (前回 28%)

(6) 国内の主要な問題は何と考えるか。

ア 治安悪化 : 62% (前回(5月、以下同じ) 53%)

- イ 経済及び失業 : 13% (前回17%)
- ウ 汚職 : 13% (前回20%)

2 元バハカリフォルニア州知事の逮捕

16日、連邦検察庁は、燃料密輸に関わったとして、ルフォ元バハカリフォルニア州知事を逮捕した。ルフォ氏の所有する会社は燃料密輸容疑ですでに捜査対象となっており、一連の流れを受けて同氏は逮捕された。所属政党の PAN は司法手続きで潔白が証明されることを期待としつつも、MORENA 所属の現職のバハカリフォルニア州知事との扱いの差を批判している。

3 ウルアパン市長殺害事件の被疑者逮捕

30日、国防省及び治安・市民保護省は合同作戦を実施し、マンソ・ウルアパン市長殺害の主犯格とされるラモン・アンヘル・アルバレス・アヤラ（通称「エル・R1」）を逮捕した。ガルシア・ハルフシュ治安・市民保護大臣の SNS 投稿によれば、「エル・R1」は、ハリスコ新世代カルテル（CJNG）の幹部構成員である由。

【墨米外交】

1 サンバダ移送に使用した航空機の展示

2024年にサンバダ氏が米国に移送され、メキシコ政府は米連邦捜査局（FBI）がメキシコ領土内で事前通知なしに作戦を実行した疑いがあるとして捜査し、主権侵害の可能性を指摘している件に関し、7月上旬、移送に利用された飛行機がニューメキシコ州の War Eagles Air Museum に展示され、展示プレートには「FBI 捜査官2名が高度に複雑で秘密裏かつ大胆な逮捕作戦を成功させた」と記載されていると報道された。7月7日、シェインバウム大統領は、早朝記者会見において、「移送当時、サラザール駐墨米大使は米は関与していないと言っていたが、今回の展示では、FBI が自らの作戦として公に主張しており、同大使が虚偽の発言をしたのか」と問題提起しつつ、米国機関が関与していたとすれば国際条約およびメキシコ憲法に違反する可能性がある旨を指摘した。外務省は連邦検察庁に対し、犯罪性の有無の調査と FBI への直接照会を要請したと明らかにした。

2 ICE 作戦中のメキシコ人死亡事案にかかる告訴

13日、シェインバウム大統領は、米国司法省および各州検察に対し、在米メキシコ人17名の死亡（ICEの作戦中に死亡した3名を含む）について正式に告発すると発表した。また、ヒューストン市およびICEの拘置施設における人権侵害疑惑についても懸念を表明。本件については、ベラスコ外相がジョンソン駐墨米大使に事前通知済みの由。シェインバウム大統領は、全政党、議会、国民に対し、在外メキシコ人の人権擁護への連帯を呼びかけた。

3 メキシコ産砂糖の対米輸出枠の回復

13日、シェインバウム大統領は、今期、メキシコ産砂糖の対米輸出枠が回復したことを歓迎し、「非常に良いニュースだ」と述べた。同大統領は、この回復により砂糖生産チェーンに関わる50万世帯以上が恩恵を受けると強調した。同大統領は、ベルデゲ前農相が米国側に砂糖輸入枠回復の重要性を粘り強く訴えた功績を称賛。さらに同大統領は、エタノールなど砂糖由来製品の活用拡大や、国内飲料メーカーが健康への影響が少ないサトウキビ砂糖を果糖の代替として使用する可能性についても検討していると述べた。

4 シェインバウム大統領、W杯決勝に出席

19日、シェインバウム大統領は、W杯決勝を出席するため米国を訪問した。カーニー・カナダ首相とともにトランプ大統領の招待を受けたもの。大統領は、出発前のSNSにおいて、この招待を米国との良好な意思疎通を示すものと強調。

5 マヨ・サンバダに終身刑判決

20日、ニューヨーク連邦地裁は、シナロア・カルテルの元最高幹部であるマヨ・サンバダを麻薬密売、犯罪組織運営などの罪状で終身刑を言い渡した。判決では、終身刑に加え、150億米ドルの資産没収も命じた。シェインバウム大統領は、21日の早朝記者会見で、判決に関してノーコメントとしたが、改めてサンバダが米国に移送された経緯は説明が必要だと強調し、サンバダを擁護しているのではなく、主権の問題と述べた。また、没収される150億米ドルについてもメキシコも被害国として一部返還を求める可能性があると述べた。

6 生体牛の対米輸出再開

24日、シェインバウム大統領は、ロリンズ米農務長官からの書簡を受け、ラセンウジバエ感染によって2024年11月から停止されていたメキシコ産生体牛の対米輸出が8月下旬より段階的に再開される見通しであると発表した。再開はソノラ州およびチワワ州の国境で行われる予定である。大統領はこの進展について、「相互尊重に基づくメキシコと米国の対話・協力・連携が成果をもたらした新たな事例だ」と評価した。

7 米高官のメキシコの治安関連発言

27日、ミラー国土安全保障補佐官は、麻薬カルテルがメキシコの領土を支配しており、政治・法制度が機能していないと発言。7月28日には、トランプ大統領は、USMCAが米国にとって重要ではないと発言。また、8月5日、米司法省・国務省、FBI、DIAは記者会見にて、ハリスコ新世代カルテル(CJNG)のリーダー8人に関する情報提供・身柄について報酬を跳ね上げ、合計1億ドル以上とする旨発表。

【その他外交】

1 スイス大統領のメキシコ訪問

6日から8日にかけて、パルメラ・スイス大統領が企業ミッションとともにメキシコを訪問した。シェインバウム大統領と国立宮殿で首脳会談を実施した後、共同記者会見を実施した。共同記者会見において、両首脳は貿易協定の更新や投資促進、教育・科学分野での協力強化について合意した発表。両国は平和主義・多国間主義、国際法尊重という共通の価値観を確認するとともに、2018年以来67点の文化財がスイスからメキシコへ返還されてきた文化遺産協定の成果を高く評価した。

2 パナマ大統領のメキシコ訪問

15日、シェインバウム大統領はメキシコを訪問したムリーノ・パナマ大統領と首脳会談を行った。会談の共同記者会見では、両国がパナマ運河中立議定書を支持し、地域の安定と主権の重要性を確認した。両国は大西洋・太平洋をつなぐ「橋の国」として、貿易・投資・文化・学術など幅広い分野での協力強化に合意した。農業分野では、牛のラセンウジバエ撲滅に向けた協力が進んでおり、パナマの経験を取り入れたバイオ工場がチアパス州に新設されたことを強調。経済面ではパナマが中南米最大の物流・金融ハブとしての優位性をアピールし、メキシコ企業のさらなる進出を呼びかけた。安全保障面で、は米州機構と連携した地域麻薬対策会議をパナマで開催する計画が示され、メキシコの参加が招請された。

3 ベラスコ外相のカナダ訪問

17日、ベラスコ外相はカナダを訪問し、メキシコ・カナダ行動計画2025－2028の実施状況の確認および二国間の政治的対話の維持を目的とした実務会合を行った。アナン・カナダ外相との会談では、貿易・投資、保健、安全保障、輸送、製造業、環境保護の各分野における成果が確認された。また、アナンダサンガリー公安大臣、マッキノン運輸大臣、ジャレットUSMCA首席交渉官とのワーキングランチも開催され、二国間関係の優先課題と今後の方針について協議した。